６　豚の脾臓（全身性非定型抗酸菌症）

機　関　名：豊橋市食肉衛生検査所　　氏　名：下司　高弘
動　物　名：豚　　品　種：雑種　　性　別：雌　　年　齢：6ヶ月齢
病　　歴：特になし
生 体 所 見：健康畜として搬入され、異常は認めなかった。
内 臓 所 見：
【脾臓】
腫大し（約 35×8cm）、粟粒大～小豆大のクレーター状に隆起した白色～赤色結節が多発していた。割面は濾胞構造が不明瞭で、漿膜面と同様の結節がみられた。
【肺】
右側中葉割面で、乳白色で透明感のある粟粒大の病変が数ヶ所みられた。
【肝臓】
軽度に腫大し、全葉にわたり粟粒大の乳白色結節が多発していた。結節はくさび型～不整形で、割面にも同様の結節がみられた。
【腸間膜リンパ節】
軽度に腫大し、針尖大～粟粒大の乾酪壊死病変が散在していた。

その他臓器、リンパ節等に異常はみられなかった。

組 織 所 見：
【脾臓】
結節部では類上皮細胞、ラングハンス型巨細胞を含む多核巨細胞、リンパ球が高度に浸潤し、線維芽細胞や膠原線維の顕著な増生がみられた。チール・ネルゼン染色で、類上皮細胞及び多核巨細胞内に抗酸菌を認めた。
【肺】
結節部では、類上皮細胞、多核巨細胞、リンパ球が浸潤し、線維芽細胞の増生がみられた。
【肝臓】
結節部では、類上皮細胞、多核巨細胞、リンパ球、好酸球が浸潤し、線維芽細胞の増生がみられた。
【腸間膜リンパ節】
石灰化を伴う壊死巣を取り囲むように類上皮細胞、多核巨細胞、リンパ球が浸潤し、その周囲で線維芽細胞や膠原線維が増生していた。病変部と正常部の境界は明瞭であった。チール・ネルゼン染色で壊死巣に抗酸菌を認めた。

細 菌 検 査：
脾臓、肺、肝臓、腸間膜リンパ節の病変部を 2%NaOH 水溶液で前処理し、3500rpm、30 分遠心後、沈渣にチール・ネルゼン染色を施し鏡検したところ、全ての病変部において抗酸菌を確認した。

固 定 方 法：10%中性緩衝ホルマリン

行 政 処 分：全部廃棄

組織診断名：非定型抗酸菌による肉芽腫性炎

疾病診断名：全身性非定型抗酸菌症